

学校教育 目標	夢に向かって自ら学び、心豊かで最後までがんばり通すこどもの育成
育成を目指す 資質・能力	○確かな学力の定着・向上 ○人を思いやる心の育成 ○体力・運動能力の向上

	学力状況について	学習状況について
児童 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○全国学力・学習状況調査では、学校全体の平均正答率は、目標値や県平均正答率を上回っているが、個別に見ると、平均正答率に達していない児童もいる。学力の二極化が見られた。また、記述式の問題で無回答率が高くなっている。 ・国語の漢字や熟語、修飾語等の言語事項、算数の計算力(個人差あり)、分数や割合、単位量当たりの大きさ、理科の自然の事物の変化や電気回路等、生活に関連付けて考えることに課題がある。 ○単元末テストの「平均点を85%以上にする」は、国語、算数、理科のすべてにおいて達成している。しかし、「60%未満の児童6%以下にする」は、各教科、達成できていない学年もある。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○質問調査において、「分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできているか」の質問に「当てはまる。どちらかといえば当てはまる」と解答した児童の割合83.1%は、全国より高い半面、「どちらかといえば当てはまらない。当てはまらない」児童も16.9%いる。 ○質問調査において、「国語、算数、理科の授業内容はよく分かりますか」の質問に、「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国、大分県の割合より低い。 ○年度初めに、滝尾小学校及び滝尾中学校区家庭学習(宿題)の手引きを配布しているが、家庭での学習時間ややり方等に個人差が見られる。 ○正答率が低い児童ほど、授業に集中できていない傾向にある。
	これまでの学力向上の取組に対する児童の状況(授業及び授業以外の側面から) ○1学期の学校評価アンケート(児童)において、「授業が終わった時に、『分かった、できた』という気持ちになっている」の肯定的評価は93.9%であった。 ○1学期の学校評価アンケート(児童)において、「今月の『学習のめあて』を守っている」の肯定的評価は91%であった。 ○1学期の学校評価アンケート(児童)において、「滝尾っ子ノートのきまりを守って、授業でノートに考えなどを工夫して書いている」の肯定的評価は90.4%であった。 ○1学期の学校評価アンケート(児童)において、「家で学年に応じた時間勉強している」の肯定的評価は82.2%であった。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○1学期の学校評価アンケート(教職員)で「新大分スタンダードに基づく毎日の授業により、こどもたちが『授業が分かった』喜びや楽しさを味わえる授業づくりを心がけた。」の肯定的な評価は97.1%であった。 ○1学期の学校評価アンケート(教職員)で「滝尾っ子ノートのきまり」を定着させるとともに、こどもたちがノートに考えを工夫して書くよう指導した。」の肯定的な評価は、85.3%であった。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○授業や家庭学習(宿題)において、既習事項の定着に向けて反復練習を行っている。 ○一人1台端末を活用して個に応じたドリル学習を取り入れている。 ○主に高学年において、ロイロノートを活用して、自分の考えをまとめ伝え合う活動を行っている。 ○児童の学力向上につなぐため、算数のTT指導を3、4年生で、教科担任制を5・6年生で実施している。	

学力に関する達成指標

1・2年は国語・算数、3年以上は国語・算数・理科において、単元末テスト平均85点以上にする

今後の 具体的 な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	〈授業改善のテーマ・重点〉 自ら考え、課題やめあてをもって主体的に学び、考えを広げ深める「伝え合い活動」と学びを確かめ次につながる「振り返り」通して、意欲的に取組学び合うこどもの育成。	
	〈取組内容〉 ○「分かった、できるようになった」が味わえる授業づくりと振り返りの時間の工夫。 ○滝尾っ子「学習のきまり」を全校で共有し、学習規律指導を徹底。 ○板書とノートの一体化に努め、「滝尾っ子ノートのきまり」を全校で共有し、ノート指導を徹底。 ○習熟度別授業や補充学習の場を設定し、一人1台端末を活用した学習や補充プリントの準備・実施により低学力層の学力向上を図る。	〈家庭・地域の取組内容〉 ・「滝尾小学校・滝尾中学校区 家庭学習の手引き」を参考に、家庭学習の習慣化に取り組む。 ・児童が持ち帰った一人1台端末を活用し、家庭学習に取り組ませる。
	〈取組指標〉 ○毎時間、大分スタンダードに即した板書の構造化に取組、振り返りの時間を設定。 ○「今月の学習のめあて」を掲示するとともに、毎日、児童に振り返りをさせる。 ○「滝尾っ子ノートのきまり」の指導の徹底を図り、ノート検定に挑戦させる。 ○3、4年生では算数の少人数指導・TT指導の実施、また、学年部毎に低学力層に向けての指導体制を工夫し、月2回以上の個別指導を実施。 ○補充プリントだけでなく、デジタルドリル等一人1台端末を活用し、個に応じた補充学習を単元毎に実施。	〈家庭・地域の取組指標〉 各家庭で、「滝尾小学校・滝尾中学校区 家庭学習の手引き」に基づいた学習時間・内容に取り組む。
	〈検証指標〉 ○新大分スタンダードに基づく毎日の授業により、「授業が分かった」と回答する児童90%以上。 ○今月の「学習のめあて」を守っていると回答する児童90%以上。 ○「滝尾っ子ノートのきまり」により、「ノートに工夫して書いている」と回答する児童85%以上。 ○習熟度別授業や補充学習等の実施により、単元末テストで60%未満の児童6%以下。	〈家庭・地域の検証指標〉 学校評価アンケート(保護者)において、「家では、こどもが宿題をしているかを確かめている」に肯定的に答える割合を85%以上にする。
【授業改善以外の学力向上の取組】 ○滝尾小学校及び滝尾中学校区家庭学習(宿題)の手引きを周知し、保護者と家庭学習について連携を図る。 ○小中一貫教育の推進を図り、義務教育9年間を見通した系統的な教育を行う。 ○多読賞の推奨や調べ学習等による学校図書館利用の促進を図り、児童の読書活動を推進する。		